

令和5年度佐世保市立三川内中学校経営方針

佐世保市立三川内中学校
校長 大田 勝明

『すべては子どもの幸せのために』

子どもたちがここにいるから、私たちは存在します。目の前の子どもたちが「幸せな毎日
を過ごすため」そして「将来の幸せな生活をつかむため」、全職員が心をひとつにして、自
信をもって教育活動を推進していきましょう。

**具体目標 「全員が毎日楽しく登校できる学校づくり」
いじめ0（ゼロ）・不登校生徒0（ゼロ）をめざす**

1 校訓 **自主・誠実・健康**

2 学校教育目標

「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒の育成」

3 教育目標達成を目指す学校・生徒・教師像

めざす学校像

- ・秩序があり
活気あふれる学校
- ・お互いを尊重し、何事にも
心ひとつに取り組める学校
- ・保護者や地域の信頼に
応える学校

めざす生徒像

- ・自ら考え、決定し、
行動する生徒
- ・思いやりがあり、違いを
認めることができる生徒
- ・心身ともに健康で
たくましい生徒

めざす教師像

- ・生徒と共に学び、
成長する教師
- ・使命感にあふれ、
率先垂範できる教師
- ・心身ともに健康で
人間性豊かな教師

4 学校の役割

- ①生きる力となる学力を形成する ②生きる力となる社会性を形成する ③地域をつなぐハブ的存在

5 経営理念

①学校教育目標の共通理解と具現化のために

校訓「自主・誠実・健康」と学校教育目標「自分の可能性を信じ、自ら学び、自ら鍛える生徒の育
成」は誰でも自信をもって言えるようになり、校歌を大きな声で歌えるようになりたい。

②学校は子どもたちのためにある

- ・生徒を中心に据え、意図的・計画的に協働して教育目標の実現を図る。「誰一人取り残さない」
- ・学校は「成長する場」「失敗できる場」「鍛える場」である。

③学校は組織体である。

- ・共通理解と共通実践でチーム力を高める。
- ・目標達成のためのリーダーシップとフォロアーシップが重要である。

④学校は地域活性化の拠点であり、地域の財産である。

- ・学校と地域で子どもを育てる。
- ・子どもの活躍は地域に元気と活力を与える。

6 教育理念

①教育は人なり

- ・学校は人間形成の場であり、社会的自立の基礎を確立する場である。
- ・共に学び合い、共に高め合おうとする雰囲気をつくる。
- ・教育は、生徒・保護者の学校への信頼の上に成り立つ。その信頼は、教師が真摯に教育に邁進する姿勢から生じるものである。

②授業こそ教師の命

- ・教師は授業で勝負する。継続した授業改善に努める。終点はない。
- ・生徒主体の学習と他者とのつながりがある学習を展開し、わかる・できる喜びと学ぶ楽しさを与える。

③礼を重んじ、場を整え、時を守る

- ・挨拶や時間厳守は集団生活の基本である。まずは教師から。
- ・美しい環境は美しい心を育てる。

6 学校スローガン 「全速前進」～三川内中、心ひとつに～ (生徒会スローガンとともに)

7 本年度の重点事項 (マンダラチャート式)

<p>【確かな学力の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○つけたい力を明確にした授業改善 (逆向き設計) ○つけたい力が身についた子どもの姿 (まとめ) を意識した授業改善 ○ICT 機器の有効的な活用 ○生徒会・PTA と連携した家庭学習の質の向上 	<p>【学年・学級経営の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子どもの居場所のある学級づくり (普通の子への対応) ○生徒理解に基づいた学級経営の推進 (家庭や地域からの情報収集) ○心を豊かにする環境の整備 (掲示物・言語環境) 	<p>【生徒指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毅然とした指導と、寄り添う指導の使い分け (納得感) ○子どもの表情の変化をつかむ (特に下校時の観察) ○報告・連絡・相談・確認・記録の徹底 ○「初動の工夫」と「もうひと手間」
<p>【特別支援教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒の実態に即した支援・指導の実践 ○型にはまらない生徒を引き上げていく指導 ○職員研修の充実 ○個別の支援計画等の有効活用 	<p style="text-align: center;">全員 (生徒・職員) が 毎日楽しく登校できる 学校を目指すために。</p>	<p>【服務規律の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○笑顔あふれる職員室づくり 安心できる居場所づくり ○あらゆる不祥事の根絶を同僚性により達成する ○ON・OFF の切り替えができる環境の設定 ○外部機関と連携した職員研修の充実
<p>【小中連携の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1小1中の利点を生かした連携の推進 (年間を通じた相互参観の実施) ○OPTA 活動を含めた連携 	<p>【社会に開かれた学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携した陶芸活動の充実 ○学校HPの充実と各種通信の発行による積極的な情報発信 ○地域人材を生かした教育活動 ○三川内っ子教育支援会議 (保・小・中・地域との連携) 	<p>【働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木曜日放課後は「何もしない・何も入れないデー」の推進 ○複数顧問制を生かした部活動運営 (地域移行を踏まえた外部人材・保護者会の活用) ○年休や各種休暇の取得推進

8 具体目標を達成するために

【いじめ0(ゼロ)】 全職員がすべての子どもたちの担任であるという自覚を持つ

第1段階	いじめに対する 基本認識の発信	<p>○あらゆる場で子どもや保護者に対して、「<u>いじめは絶対に許されない</u>」ということを継続して強く発信する。</p> <p>○いじめは、いつでも、どこにでも起こる可能性があるという認識を持つ。</p>
第2段階	いじめの早期発見	<p>○子どもが発信するサインに気付く。 ・日常の観察 ・チャンス相談 ・定期の教育相談 ・生活アンケート ・下校指導 ・家庭との連携 など</p> <p>○子どもや保護者との信頼関係を構築する。</p> <p>○相談できる風通しの良い職員室づくり。</p> <p>○<u>下校時の観察の充実を図り、なるべく生徒全員が教室を出るまでとどまる。また、部活動下校時の表情などの観察を行う。</u></p>
事後対応	いじめへの対応	<p>○被害者の心のケアの最優先に考え、迅速に対応する。</p> <p>○保護者との緊密に連携し、今後の対応策を協議する。</p> <p>○教職員全員で組織的に対応する。</p> <p>○OSC、SSW、スクールローヤーとの連携や専門機関への相談</p>

【不登校生徒0(ゼロ)】

第1段階	新たな不登校生徒の 出現を防ぐ	<p>○困り感のある生徒の早期発見</p> <p>○小学校との緊密な情報共有</p> <p>○始業式までの期間の有効活用（家庭訪問、保護者面談）</p> <p>○GW までの指導の在り方の工夫</p> <p>○<u>休み初めの対応の重要性（ここがポイント）</u> <u>3日続いたら家庭訪問</u></p> <p>○すべての生徒を対象に学校を休みたいと思わせない「魅力的な学校づくり」を進める。</p> <p>○<u>下校時の観察の充実を図り、なるべく生徒全員が教室を出るまでとどまる。また、部活動下校時の表情などの観察を行う。</u></p> <p>○OSC や SSW との情報共有と行動連携</p>
第2段階	現在の不登校生徒の 学校復帰への支援	<p>○スモールステップ登校 ドライブスルー登校、駐車場登校、保健室登校、別室登校など</p> <p>○ICT 機器を活用した授業や学校行事への参加。</p> <p>○保護者の気持ちに寄り添う（子ども以上に保護者は強いストレスや不安感を持っている）</p> <p>○OSC や SSW との情報共有と行動連携</p>